

ベストシティ実践区

バーゼル、ジュネーブ、 チューリッヒ ピュア・ウォーターの世界

プロトタイプ

バーゼルにとってライン川は交通輸送の生命線であり、動・植物の生息地及び市民に人気の住居エリアと娯楽場所でもある。過去30年の間に、バーゼルの自然環境、市民生活、経済の発展は、ライン川の水資源に対する市政府の持続可能な管理に負うところが大きい。

レマン湖（ジュネーブ湖）は中欧地域における最も大きな飲用蓄水池である。40年前、ここは深刻な汚染を受けていたが、公共管理部門や民間団体及び私営部門が共同で努力した結果、現在のレマン湖はその美しさを取り戻している。

チューリッヒでは飲用水の70%が市内の川からもたらされている。市内のすべての噴水は新鮮な飲用水が使われていて、その水は口当たりがよくおいしい。これは主にこの地域の独創的な汚水浄化処理システムのおかげである。スイスで最大規模の都市バーゼルでは、持続可能な発展をするために完備された供水システムが極めて重要である。

注目ポイント

パピリオンはオープン式のプラザのようにデザインされている。ここで来場者はバーゼル、ジュネーブ、チューリッヒの3都市が取り組んでいる水資源の管理状況について理解し、ピュア・ウォーターを体験すると同時にリフレッシュできる時間を過ごせる。

240平方メートルのウォーターエリアでは、来場者は浄化水と天然の砂礫層が見られ、コントロールボタンを押すと噴水が噴出される。このエリアの周りには椅子が設置され、見学者はここで音楽を聴いたりして休憩することができる。また、噴水式飲用水機器が2台設けられ、無料で飲用水を提供する。

通路を渡ると、ムービーアリーナに出る。高さ4メートルの360度パノラマスクリーンが設置され、8分間の映画を流してスイスの三大都市を案内する。

また、3本の「シティ・マガジン」というシリーズ短編フィルムで、3都市の水資源管理における実践を来場者の前に展示する。タッチパネルを使って興味のあるテーマに目を通し、多機能ホールに設置されている大型スクリーンでそれぞれの都市に関する映像を見たりすることもできる。それぞれの短編フィルムは45秒からなる。



ケース名称 ベター・ウォーター——ベスト アーバン ライフ
ロケーション ベストシティ実践区中部模擬ブロック内
展示面積 約760平方メートル
キーワード 水質

モントリオール 環境にやさしい複合体への 華麗なる変身



ケース名称 サン・ミッシェル環境複合体
ロケーション ベストシティ実践区中部ブロック内
敷地面積 約500平方メートル
キーワード 環境保全、再建

プロトタイプ

敷地面積2万平方メートルのサン・ミッシェル環境複合体は石灰岩採石場とごみ埋立地であった。このごみ埋立地をシェイ・パークに変えるべく、1995年モントリオール市政府が再建計画を打ち出した。

現在、この地域には廃棄材分別センターやマイクロパワー・ステーションなどの環境保全機関があり、世界中にその名が知れ渡るシルク・ドゥ・ソレイユもここに本部を置き、ラトウーという世界最大のサーカス芸術センターなどの文化施設を持つ。また2020年にはモントリオールの最大の緑地となる予定だ。

展示テーマ

見学者によりよくモントリオールを理解してもらうため、三つのテーマを設けて展示を展開する。「モントリオール クリールとテクニカルな街」では、ごみ埋立地をいかにして改造したかについて紹介し、廃棄物管理に関するイノベーションも展示する。「モントリオール グリーン・アイ

ランド」では、景観建設、自然空間の再建と緑化に関するイノベーションを展示する。「モントリオール 文化と創造に富み包容性に満ちた都市」では、コミュニティの参加や文化と創意に関するイノベーションにフォーカスを当てる。

注目ポイント

カナダ・ケベック州最大の都市モントリオールは上海万博において都市発展の実践経験を見学者と分かち合い、持続可能な発展の範例としてのサン・ミッシェル環境複合体をその展示の中心にしている。

モントリオールは今回のパビリオン建設に350万カナダドルを投じた。マルチメディア・ホールには、720の移動可能なブロックで575m×35mのマルチスクリーンが設置され、映像を通してサン・ミッシェル環境複合体の概況や科学技術のイノベーションが展示される。このホールは75名の見学者が収容でき、毎回5分間の上演で臨場感たっぷりにこの地域の変身を体験してもらう。

また、サン・ミッシェル環境複合体プロジェクトに関する補充情報エリアも設けられ、モントリオールの優れた環境保全技術やサン・ミッシェル環境複合体にあるさまざまな会社の紹介をする。